

．．．おめでとう。」と言える世の中を一
代表理事 中島 義夫

戦後五十年の昨年、年明け早々あの阪神大震災、一連のオウム事件、
あいも変わらぬ金権腐敗政治、子どもたちの生命と夢をはぐくむ
はずの学校教育における「いじめ」「自殺」「教師による体罰」・・・、
中国・フランスの核実験の強行、そして、沖縄における「基地を返せ」の
怒りの声の結集等々、様々な分野で戦後五十年の矛盾が噴出した年でした。

それらを通して、「生命の安全」と「人間の尊厳」をこれほど深刻に
問われたことはなかったのではないのでしょうか。そして、「古い枠組み」
のなかでは、何事も解決しないことが証明されたのだと思います。様々な
矛盾は今年も激しく噴出するでしょう。「反動」とのせめぎあいますます
鋭くなるでしょう。

一喜一憂せず、平和と民主主義をめざし、人間の尊厳を求めて、誰もが
心から「明けましておめでとう。」と言える世の中をつくるために土浦の
地に立って共に歩みましょう。



匹 司 「平和の尊さ」を伝え広めよう！

理事 大滝 誠

沖縄の抗議集会での女子高校生の胸にせまる訴えやフランスの核実験に抗議する土浦集会での高校
生の真面目な姿を見るにつけて、自らの青春時代に平和の問題に無関心であったこと、不勉強であっ
たことを思い知らされます。「次の世代に平和な日本と世界を」とがんばる多くの人々の運動を目に
しながら、人生の半ばに至るまでちっとも関わってこなかったことが情けなくも思う。こんな思いの
中で、平和委員会への誘いはまさに助け船でした。

戦地ラバウルで生き残ったものの、大いに寿命を縮めたであろう亡父（48歳で病死しました）、
義兄弟の戦死に泣いた母（70歳）・・・、生の声でこれらの証言を聞きつつ育ってきた私たちの年
代こそ、戦争の悲惨さ、平和の尊さを実話つきで話せる最後の世代だと思います。

職場の仲間たちは、いま、リストラ・合理化の嵐の中で必死です。ともすれば「平和」など意識の
外に。この平和ボケ(?)はまずい！目前に危機が迫っていることをしらせていかなければ。

楽しみながらもしっかりと学ぶ「土浦平和の会」の活動スタイルは実にすばらしい。

行事ごよみ

- 1 月 7 日 百里新春の集い（百里平和公園）
- 1 月 26 日 土浦平和の会理事会（1中地区公民館）
- 1 月 27 日 県平和委員会理事会（石岡）
- 2 月 1 日 百里初午祭（百里平和公園）

